

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人目黒区芸術文化振興財団	
施 設 名	めぐろパーシモンホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	7,359	(千円)
	公 演 事 業	6,871 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	488 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	めぐろパーシモンホール 開館20周年記念 未来の 音ガラ・コンサート	2023年3月4日	出演：角田鋼亮〈指揮〉、周防亮介 〈ヴァイオリン〉、上野通明〈チェ ロ〉、岡田奏〈ピアノ〉 他	目標値	1,020
		大ホール		実績値	1,081
2	めぐろパーシモンホール 開館20周年記念 加藤訓 子プロデュース スティ ーブ・ライヒ プロジェ クト	2022年10月~12月	出演：加藤訓子〈パーカッション〉 inc. percussionists2022	目標値	1,308
		大ホール、小ホール 中目黒GTプラザホール		実績値	2,375
3	めぐろパーシモンホール 開館20周年記念 4人の バリトンコンサート ハ ンサムなメロディー2~ハ ンサム四兄弟故郷凱旋コ ンサート~	2023年1月7日	出演：加来徹、近藤圭、与那城敬 宮本益光〈バリトン〉 他	目標値	900
		大ホール		実績値	685

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	めぐろパーシモンホール アウトリーチプログラム 2022	2022年6月～2023年 3月	弦楽器、管楽器、打楽器、声楽、バレエ等のアーティスト派遣プログラムを区内33か所で実施※	目標値	2,900
		目黒区内小中学校・高等学校、こども園、幼稚園、小ホール※		実績値	2,747

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>めぐろパーシモンホールは、①区民が質の高い芸術文化を身近に鑑賞できる機会の提供 ②区民の主体的・創造的な活動の支援 ③区民が芸術文化活動に参加し交流できる場としての機能を発揮 という3つのミッションのもと、劇場内外で事業運営を行っている。目黒区の「芸術文化に関する意識調査（平成27年1月）」において、「今後の芸術文化の振興において最も大切に思うこと」に69%が「子どものころから親しめる芸術文化の振興」と回答し、若い世代への芸術文化の普及がより一層求められている。</p> <p>公演事業においては、開館20周年記念公演として、ホールにゆかりのある演奏家を起用したオーケストラ公演、参加型プログラムを含む現代音楽の複合型公演、そして声楽コンサートと多彩なジャンルの公演を実施した。スティーブ・ライヒ プロジェクトでは、関連事業としてレクチャー（2回）とワークショップ（3回＋本番）を実施し、鑑賞体験に留まらない能動的な芸術文化体験の機会を設けることで、年齢や所属等の垣根を超えた参加者同士の交流を生み出すことができた。</p> <p>普及啓発事業では、アウトリーチプログラムについて目黒区内の公立・私立小・中・高等学校や福祉施設等51施設へ実施希望調査を行ったところ、新型コロナウイルス感染症の影響から実施を希望しないと回答した学校・施設等があったため、計33施設（昨年度比6施設増）での実施となった。各施設の希望にできるだけ沿うような形で実施ジャンルを検討し、声楽や弦楽・管楽器・ワールドミュージック・邦楽に加え、落語やバレエなどの幅広いジャンルの芸術文化体験の機会も設け、目黒区の芸術文化振興の一助となる事業とした。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>めぐろパーシモンホールはこれまで地域の芸術文化拠点として区民に様々な芸術文化を紹介しており、令和4年度に開館20周年を迎えた。年間を通してこれまでの活動を総括するような事業を展開し、改めてホールの存在を周知するとともに、今後のホールの取り組みへの関心を喚起した。</p> <p>公演事業では、当ホール公演に出演歴のあるアーティストを起用し、ホールとアーティストのつながりを生かした事業を実施した。未来の音ガラ・コンサートでは、2007年から継続している若手演奏家リサイタルシリーズ「未来の音」の出演者を起用し、一度に3曲の協奏曲を聴くことができる公演としたところ、高い関心が寄せられ完売となった。当シリーズは新たな若手演奏家に出会うことを楽しみにしているシリーズ顧客を多く獲得できており、文化的意義が継続して認められると考えられる。また、スティーブ・ライヒ プロジェクトは鑑賞型公演と参加型プログラムの複合型事業として、現代音楽への多様なアプローチ方法を提供した。参加型プログラムでは7歳から70歳までがともに活動し、地域社会における世代間交流の場を提供できた。なお、当ホール実施のワークショップ等にはリピーターが存在し、多彩なジャンルの活動を継続的に楽しんでいる。</p> <p>アウトリーチプログラムでは、目黒区内の小・中・高等学校、高齢者施設、障がい者施設などにアーティストとともに訪問し、家庭環境や身体的、経済的な条件にかかわらず地域の人々が間近で芸術文化に触れ、楽しめる機会を継続的に提供している。2006年度に4か所での実施から始まった当プログラムは、年々実施施設とジャンルを増やし、コロナ禍前には年間35施設約3,000人を対象にする規模となり、実施施設担当者や出演者からも継続的な実施を望む声が多いことから地域社会における本事業の重要性が認められる。また、以前本プログラムで三味線の演奏を聴いたことで自発的に三味線を習い始めた子どもが、再会した演奏家に直接伝えている様子等も見られ、このプログラムを通して演奏家と子どもとのつながりが生まれ、芽生えた文化的価値が新たな文化活動に再投資されていることが窺われる。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業

公演事業の有効性について、入場者・参加者数、入場者・参加者率、収益率と来場者アンケートの公演満足度（設問：「内容はいかがでしたか」）への有効回答から図ることとする。

公演1：未来の音ガラ・コンサート

〈入場者数・入場者率・収益率〉

	入場者・参加者数	入場者・参加者率	収益率
実績値	1,081人	92.0%	96.0%
目標値	1,020人	85.0%	86.7%

〈来場者アンケート結果〉

	良い
実績値	90.3%
目標値	82%
平均値	87.1%

※令和4年度事業平均

公演2：加藤訓子プロデュース スティーブ・ライヒ プロジェクト

〈入場者数・入場者率・収益率〉

	入場者・参加者数	入場者・参加者率	収益率
実績値	2,375人	87.0%	70.0%
目標値	1,508人	64.2%	55.0%

〈来場者アンケート結果〉

	良い
実績値	87.7%
目標値	82%
平均値	87.1%

※令和4年度事業平均

公演3：4人のバリトンコンサート ハンサムなメロディー2～ハンサム四兄弟故郷凱旋コンサート～

〈入場者数・入場者率・収益率〉

	入場者・参加者数	入場者・参加者率	収益率
実績値	685人	54.0%	42.0%
目標値	900人	75.0%	60.5%

〈来場者アンケート結果〉

	良い
実績値	86.6%
目標値	82%
平均値	87.1%

※令和4年度事業平均

〈入場者数・入場者率・収益率〉は「未来の音ガラ・コンサート」と「スティーブ・ライヒ プロジェクト」においては全項目で目標値を達成したが、「4人のバリトンコンサート」ではいずれも目標値に未達となった。

〈来場者アンケート〉はいずれの公演も、公演内容についての全3段階評価の最も上位である「良い」という回答が目標値を達成する結果となった。

普及啓発事業

普及啓発事業の有効性について、実施会場数、入場者・参加者数、実施施設担当者による評価アンケートの有効回答から図ることとする。

普及1：めぐろパーシモンホール アウトリーチプログラム2022

〈実施会場数・参加者数〉

	実施会場数	入場者・参加者数
実績値	33か所	2,747人
目標値	35か所	2,900人

〈評価アンケート〉

	満足度
平均値	4.8点
目標値	—

※5点満点評価

コロナ禍における日常生活の行動制限は緩和されつつあるが、病院等の感染リスクの高い環境での実施は難しく、〈実施会場数・参加者数〉ともに目標値に未達となった。しかし、本年度から区立学校のみならず、区内私立学校へもプログラム実施を打診し、新たに4校194名の私立中学・高等学校の生徒に鑑賞機会を提供した。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業・普及啓発事業の全助成対象事業において、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となることなく実施することができた。

「スティーブ・ライヒ プロジェクト」は、10月にプロデューサーの加藤訓子によるソロ公演、11～12月にレクチャー&ワークショップ、12月に加藤と若手演奏家グループによる大ホール公演と3カ月にわたって実施した。期間中に当ホールの練習室や分館を活用して若手出演者の入念なりハーサルを行い、演奏の精練に寄与した。大ホール公演に先立ち、演奏曲目について実演を交えて解説するレクチャーと実際に大ホール公演に参加することのできるワークショップを実施することで、プロジェクトをより充実したものとし、参加型プログラムを公演への来場の契機とすることができた。

「4人のバリトンコンサート」、「未来の音ガラ・コンサート」、「アウトリーチプログラム」は、概ね当初の計画通りの事業期間で実施することができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

令和4年度事業計画（助成対象事業）に対する実績は、下記の通りとなった。

	公演事業	普及啓発事業
① 要望総事業費	21,158,000	4,831,000
② 実績総事業費	22,266,894	5,226,206
要望比 (②/①)	105.2%	108.2%
差額 (①-②)	▲1,108,894	▲395,206

公演事業：収入

未来の音ガラ・コンサートは、活躍が目覚ましい演奏家と日本を代表するオーケストラの共演で3つの協奏曲を聴くことができるという内容から、チケットが完売となり、要望額を上回った。スティーブ・ライヒ プロジェクトは広報用ショート動画がSNSで話題となり、チケット販売収入が要望額を大幅に上回った。4人のバリトンコンサートは、正月明け早々という時期の影響もあってか、要望額を下回る結果となった。

公演事業：支出

未来の音ガラ・コンサートはチケット発売開始当初より需要が高く、宣伝費の支出を抑えることができた。スティーブ・ライヒ プロジェクトは、当助成を受けたことにより事業規模の拡充が可能となり、支出実績が要望時を大幅に上回った。4人のバリトンコンサートは、公演周知のためのSNSや新聞掲載等の広告費や他館へのチラシ配布のために宣伝費の支出が増えた。

普及啓発事業：収入

目黒区からの補助金の他、本事業に賛同する地域団体から協賛金を獲得し要望時から変更はなかった。

普及啓発事業：支出

助成金の獲得を受けて事業の充実を図ることを目的とし、事業記録冊子を制作したことで、制作におけるデザイン料を含む印刷費やプロのカメラマンによる撮影のための記録費の支出があった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

めぐろパーシモンホールは、大・小ホールと練習室等から構成される文化施設であり目黒区の芸術文化の発信拠点として事業を展開している。1,200人を収容できる大ホールは音響設備の評価も高く、地域の学校や文化団体の発表の場として利用される他、プロフェッショナルな文化団体の公演での利用も多い。小ホールは、劇場型と平土間形式の2パターンでの利用が可能のため、演奏会やワークショップなど用途は多岐にわたる。

公演1：未来の音ガラ・コンサート

2007年から15年以上継続して実施している若手演奏家リサイタルシリーズ「未来の音」は、小ホールにてリサイタル形式で実施している（コロナ禍を除く）。本事業はシリーズを総括する意味合いを込めて、当シリーズの過去の出演者の中でも特に活躍が目覚ましいアーティストを起用し、気鋭の人気指揮者と日本を代表するオーケストラとの共演で大ホールにて協奏曲3曲を一度に聴くことのできる演奏会として実施した。大ホールは前記した通り音響設備に定評があり、来場者からはオーケストラ公演の開催を望む声が多く寄せられていたこともあり、当公演の来場者アンケートでは満足の声が多く見られた。地域の芸術文化発信拠点として、質の高い鑑賞事業を実施することで当ホールのソフト面・ハード面両方の魅力を訴える機会とすることができた。

公演2：加藤訓子プロデュース スティーブ・ライヒ プロジェクト

小ホール公演では可変機能のある会場の特性を生かして前方を平土間型としてアクティングエリアを広くとり、9枚のスクリーンに映し出される映像と多重録音、本人のライブ演奏による共演で12人のアンサンブル作品を一人の演奏で再現する、意欲的な表現を披露した。大ホール公演ではオーケストラピットの床を上げて舞台面を広くすることで、マリンバやヴィブラフォンなどの大型楽器を複数使用するスティーブ・ライヒの大編成作品を演奏することができた。また、参加型プログラムでは中目黒駅前にある分館を活用した。事業期間中はホールの練習室や分館を利用して若手出演者が入念なりハーサルを行う時間と場所を提供し、ホールでの創造、若手演奏家の育成にも寄与した。

公演3：4人のバリトンコンサート ハンサムなメロディー2～ハンサム四兄弟故郷凱旋コンサート～

2019年に大ホールにて同じ4人のバリトン歌手を起用して開催した「4人のバリトンコンサート ハンサムなメロディー」の来場者アンケートにて、公演内容が「良かった」との回答が86%を占め、再演を望む声が非常に多くあったことから、ホール開館20周年の記念公演として本事業を実施した。公演内容も前回公演にてリクエストの多かったバリトン4人での歌唱を取り入れ、新春公演ならではの楽しみ企画として出演者が羽織袴姿で登場しトーク中の撮影タイムや来場者向けにデザイン制作した応援うちわの配布を行うなど、一般的なクラシック公演とは一線を画した芸術文化の楽しみ方を提案することができた。

普及1：めぐろパーシモンホール アウトリーチプログラム2022

本事業は、プロの実演家による質の高い演奏や表現とともに実演家との交流を楽しんでもらう鑑賞型と、実演家の指導による体験型の大きく分けて2つの形態で実施している。起用する実演家は、実演家の広いネットワークを持つNPO法人2団体からの紹介や共催事業で関係のある公演事業者など、ホール職員が培ってきた人的ネットワークの中から、実施施設の希望や対象者の条件をふまえてジャンルや出演者を選定している。実施内容についてもホール職員・実施施設担当者・実演家の三者で調整をしながら、芸術性を確保しつつ対象者にマッチした内容を提供できるよう考慮している。また、学校では特別支援学級の子どもたちも介助教員の協力のもと参加し、コロナ禍で自宅学習をする生徒たちもリアルタイムでプログラムを体験できるようにライブ映像を通して参加するなど柔軟に対応した。なお、令和5年度は区の教育委員会から区立小学校全校にて教育課程として本事業を実施する依頼があり、長年の実績が評価されたものと窺われる。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

公演事業では、声楽、現代音楽、オーケストラという多様なジャンルの芸術を様々なアプローチで紹介した。アウトリーチプログラムでは、ホール独自のネットワークや職員の知識・経験を生かして身近に芸術を楽しめる企画を継続して実施している。長年にわたりホールに親しんでいただいている人、開館 20 周年事業を機にホールを知った人など、様々な人がホールの事業を通じて多彩な芸術文化に触れたことが、アンケートや SNS の感想から窺われた。

公演 1：未来の音ガラ・コンサート

〈来場者アンケート・SNS での反応など〉

- ・目黒区民で幸せを感じてしまいました。素敵な演奏会ありがとうございました。
- ・毎回未来の音の公演を楽しみにしています。若手の意欲的なプログラム発表の場をこれからも続けてください。
- ・目黒区芸術文化振興財団はこれまで、これから世に出るであろう可能性を秘めた若いアーティストをいち早く見つけて、地元目黒で気軽に聞けるきっかけを作ってくださいました。今回のプログラムはボリューム満点で大満足です。

公演 2：加藤訓子プロデュース スティーブ・ライヒ プロジェクト

〈来場者アンケート・SNS での反応など〉

- ・期待を上回る素晴らしいライブ。若い演奏家達のクリアな演奏に感動。こうしてライブで聴くと新たな発見がある。示唆に富む刺激的なライブでした。
- ・市民参加のクラッピング・ミュージックはとても良い取り組みで、皆さん素晴らしかったです。
- ・1 日目子供たちと家族全員で、2 日目もあまりに良かったので残りわずかだったチケット入手し 2 日連続で行ってきた。
- ・ワークショップに参加しました。少し勉強してから今日の演奏を聴いたので、仕組みが分かっているからこそ、色々な気づきや面白さが分かって全編楽しめました。

公演 3：4 人のバリトンコンサート ハンサムなメロディー2～ハンサム四兄弟故郷凱旋コンサート～

〈来場者アンケート・SNS での反応など〉

- ・今回も四重唱もソロも素晴らしい歌唱にたっぷり浸ってあたたかく愛あるコンサートとても楽しかったです！
- ・客席皆でサイリウム。サイリウムは初めてだったけど会場全体が綺麗であたたかい感じでよかったです。

普及 1：めぐろパーシモンホール アウトリーチプログラム 2022

アウトリーチプログラムでは、小・中・高等学校、障がい者施設などでのコンサートや体験プログラムを実施した。施設側の担当者の希望も汲みつつホール職員の経験や知識を生かし、質が高くかつ純粋に楽しむこともできる内容を心掛けている。コロナ禍では密を避けるため体育館で実施してきたが、徐々に音楽室等での開催が可能となり、より間近でプロの演奏家の息遣いやテクニクを感じ取れる本プログラムの本来の姿に戻りつつある。

〈参加者の感想〉

- ・三味線の音が、気持ちいい風がふいているような感じだったのでやってみたいと思いました。(津軽三味線)
- ・綺麗な音色、そして音のコントラスト、全てがすごかったです。言葉では言い表せないくらい、躍動感があり、その中での温かい音や、強く尖った音、ほんとにすごかったです。(ヴァイオリンとピアノ)
- ・僕は楽器を吹いたりするのが苦手ですが、このプログラムで楽器に少し興味がわきました。僕も音楽についてもっと知りたいと思いました。本当に感謝しています。(金管五重奏)

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

事業運営 全主催公演事業で来場者アンケートを実施し、入場者数や内容満足度を事業収支と合わせて事業評価を行い、次年度以降の事業企画立案に生かしている。**未来の音ガラ・コンサート**は当ホールで15年継続して実施している「未来の音」シリーズのこれまでを総括する公演として、**4人のバリトンコンサート**は、2019年に実施した同アーティストを起用した公演の発展形として実施した。**スティーブ・ライヒ プロジェクト**は、2021年度の共催事業に出演したアーティストをプロデューサーに迎えるなど、中長期にわたる一貫性のある事業展開を目指しながら運営している。

普及啓発事業の**アウトリーチプログラム**では、2006年度に区内4か所の学校で事業を開始して以来、毎年実施施設を増やし、コロナ禍前の2019年度には35施設3,072人を対象とするまでに事業規模を拡大してきた。ジャンルも弦楽器や声楽、金管五重奏、木管アンサンブル、和楽器、民族音楽、落語、バレエ、コンテンポラリーダンス、タップダンス体験など、ホールとアーティストとのネットワークを活用し、ホール公演とも連動させながら多様な芸術文化を紹介してきた。実施する中で経験値を上げた職員が、限られた職員体制ながらホールでの公演と並行し、また各施設の条件に柔軟に応じながら芸術文化を届けている。

経営戦略 各事業の実施には本助成金以外では、チケット販売収入や目黒区からの補助金のほかに、他団体の協賛金を受けるなどの収入を上げる自助努力を継続して行っている。また、鑑賞事業からワークショップ、アウトリーチなど多様な事業を企画・運営してきた当ホール職員の経験や知識を次年度以降の事業に効果的に発揮、反映することで、地域の芸術文化の発展、ひいては地域の活性化への貢献を目指す。

人事戦略 当ホールの事業を担当する課ではすべての職員が鑑賞事業、教育普及事業、地域の市民活動支援事業など、様々な事業を担当している。また、ソフト面のみならず、施設の保守・管理業務も併せて担当し、貸館利用の実情やホールのハード的な知見も備えている。こうした仕事を経る中で全員がホールに関するオールジャンルのプロフェッショナルとなれるよう育成し、小規模組織のマンパワー的弱点を補いながら運営している。

ネットワークの構築 当ホールでは、事業をそれぞれ単発で終えるのではなく、ホール公演の出演者にアウトリーチプログラムに出演してもらい、ワークショップの講師になってもらう、反対にアウトリーチの出演者をホール公演で紹介するなど、つながりを作りつつ継続的に事業を展開していくことで、ホールの仲間ともいえるアーティストを増やしている。また、地域のアマチュアの芸術活動団体のネットワークをつくり、各団体が定期的集まり情報交換をしたり、互いの公演で手伝いあうなどの橋渡し役をホールが担っている。このようにプロフェッショナル、アマチュア問わず、地域における芸術活動のネットワークの中心となり、更なるつながりを拡げることともホールの重要な役割とする。

当助成を受けた事業では、地域での需要を汲みながら、様々な年代の人々が多様な芸術文化に触れられることによって地域の芸術文化・地域社会の活性化を図ることを目的として、開館20周年という節目の年度にホールがこれまで積み重ねてきた事業を総括するような公演やプログラムを企画・実施した（P・C）。事業を実施したことで、前記のアンケートの感想にも見られるように地域の人々が鑑賞や体験を通して芸術文化に触れる喜びを感じたり、新たな発見をしたり、様々な思考を巡らせるきっかけを提供し、来場者や参加者の生活に芸術文化による彩りを加えることができたことが窺われる（D）。SNSの効果的な活用方法や集客の予測の難しさ、助成を受けたことによる収支のバランスのととり方など、これらの事業を通じて改めて明らかになった改善点や問題点を職員が共有することで、今後の企画や事業計画に反映し、持続可能でより充実し、かつ効率的な事業運営を目指す（A）。